

# 保育所看護職者の配置形態の違いによる 保育保健活動の現状と課題

## Current situation and issues relating to child healthcare activities of nurses at day care centers due to differences in work allocation

阿久澤 智恵子, 青柳 千春,  
金泉 志保美\*, 松崎 奈々子\*, 下山 京子\*\*, 佐光 恵子\*

\*群馬大学大学院保健学研究科

\*\*高崎健康福祉大学保健医療学部

### 要約

本研究の目的は、保育所看護職者を対象に保育保健活動の担当状況を調査し、保育所での配置形態による関連を明らかにし、今後の保育所看護職者の配置に関する課題を検討することである。A県内の保育所に勤務する看護職者71名のうちA県保育協議会の研修会に参加した保育所看護職者41名を対象とし、自作の質問紙調査を行った。保育保健活動30項目の担当状況を『子どもへの支援』『家族への支援』『多職種・関連機関との連携・協働』の3つのカテゴリーに分類し、「クラス担当配置」と「フリー配置」の配置形態による差異を比較した。結果、3つのカテゴリーのいずれも、「フリー配置」の方が保育保健活動の担当状況の平均値が高かった。保育所看護職者が、その専門性を発揮し保育保健活動を遂行するためには、配置形態の改善が必要であることが示唆された。

キーワード：保育所看護職者，配置形態，保育保健活動

### はじめに

女性の高学歴化，社会進出，さらに経済的不況による雇用形態の多様化などの社会背景の中，慢性疾患や障害・アレルギー疾患を持つ子どもが増えている現状がある。さらに，感染症や乳幼児突然死症候群への早期発見や対応など，保育所に求められるニーズも多様化してきている。様々な感染症に罹りやすい乳幼児期の子どもたちが，集団で長時間に渡り保育所で過ごすため体調の変化をきたしやすく，その結果，保護者の就労状況にも影響を及ぼすこともある。また，育児に対して不安や悩みをもつ保護者が増える中，健康上気になる子どもについての相談や支援等を，専門的知識と技術を持つ専門職に求める保護者も多い。子どもの健康を保持・増進する活動，いわゆる保健的な観点を持ち子どもに関わり，さらに家族の養育力を高めるための関わりも保育所看護職者の保育保健活動における重要な役割となってくると考えられる。

しかし，現在，保育所看護職者の行う保育保健活動領域に関する業務基準や国の明確な指針が示されていない。そのため，保育所看護職者の8～9割が保育士の一人として保育業務も行っているとの報告があり<sup>1)</sup>，「保育業務に従事するため看護業務が行えない」<sup>3)</sup>「クラス担任として保育に追われている」<sup>4)</sup>等，看護職者としての専門性を生かした役割が果たせないという課題が報告されている。そこで，本研究では保育所看護職者を対象に保育保健活動の担当状況を調査し，保育所での配置形態による関連を明らかにすることで，今後の保育所看護職者の配置に関する課題を検討することを目的とした。

### 用語の操作的定義

保育所看護職者：本研究では，「看護師（准看護師を含む）・保健師・助産師の資格を有し，保育所で勤務している者」と操作的に定義した。

保育保健活動：本研究では，「保育所における，総合

的な子どもの心身の健康、安全に関する管理と指導の保健実践活動」と操作的に定義した。

**クラス担当配置**：本研究では、「保育所において保育所看護職者がクラス担任として配置されている勤務形態」と操作的に定義した。

**フリー配置**：本研究では、「保育所において保育所看護職者がクラスを持たず、看護職専任として配置されている勤務形態」と操作的に定義した。

## 研究方法

1. **調査対象者**：A 県内の保育所に勤務する看護職者 71名のうち A 県保育協議会の研修に参加した保育所看護職者 41名。

2. **データ収集期間**：平成 24 年 7 月

3. **研究デザイン**：量的研究・関係探索研究

4. **データの収集方法**：A 県保育協議会の研修に参加した保育所看護職者に対し、自作の質問紙調査を行った。質問紙は、社会福祉法人日本保育協会（平成 21 年度）作成の「保育所における保健活動 16 項目」<sup>5)</sup> 及び、全国保育園保健師看護師連絡会（2005 年）作成の「保育保健業務の活動領域」<sup>6)</sup> を参考にして作成した。質問項目は、保育所での配置状況と保育保健活動 30 項目の担当状況についてであった。保育保健活動 30 項目

それぞれの担当状況を「まったく担当しない：1 点」「ほとんど担当しない：2 点」「どちらともいえない：3 点」「ほとんど担当する：4 点」「いつも担当する：5 点」に点数化した。

5. **データの分析方法**：クラス担当配置とフリー配置それぞれの各質問項目について記述統計を行った。データの統計処理には、Microsoft Office Excel 2007 を使用した。30 項目の平均値に差が見られた項目について考察を加えた。

6. **倫理的配慮**：対象者に研究の趣旨、強制ではないこと、研究目的以外には使用しないこと、プライバシー保護等について説明した。アンケート用紙は、研究協力に同意が得られた者のみが記入を行い、会場に設置した回収箱にて回収した。本研究を実施するにあたり、A 大学医学部疫学研究倫理審査委員会の承認（承認番号 22-32）及び A 県保育協議会会長の許可を得た。

## 結果

質問紙の回収数は 37（回収率 90.2%）、有効回答数は、33（有効回答率 89.1%）であった。

### 1. 対象者の基本属性（表 1）

保育所看護職者の年齢は 40 歳代が最も多く 42.4%、

表 1 対象者の基本属性

		n=33	
項目	人	%	
性別	女性	33	100
	男性	0	0
年齢	20～29 歳	0	0
	30～39 歳	10	30.3
	40～49 歳	14	42.4
	50～59 歳	5	15.2
	60 歳～	4	12.1
資格	准看護師	10	30.3
	看護師	18	54.6
	看護師・助産師	1	3.0
	看護師・助産師・保健師	1	3.0
保育所での経験年数	看護師・養護教諭	3	9.1
	1～5 年未満	20	60.6
	5～10 年未満	8	24.2
	10～15 年未満	3	9.1
雇用形態	15 年以上	2	6.1
	常勤	12	36.4
看護職配置人数	非常勤	21	63.6
	単独配置 (1 人)	14	42.4
	複数配置 (2 人)	16	48.5
配置形態	(3 人)	3	9.1
	クラス担当配置	17	51.5
実施している保育サービス (複数回答)	フリー配置	16	48.5
	病児保育	9ヶ所	
	病後児保育	13ヶ所	
	障がい児保育	7ヶ所	
	育児相談	8ヶ所	
	地域子育て支援センター	16ヶ所	

所有の資格は看護師が最も多く54.6%，保育所での経験年数は1～5年未満が最も多く60.6%を占めていた。雇用形態は、常勤が36.4%・非常勤が63.6%，単独配置42.4%・複数配置が57.6%であった。また、クラス担任している者（クラス担当配置）は51.5%・クラス担任をしていない者（フリー配置）が48.5%であった。

## 2. 配置形態の違いによる保育保健活動の担当状況の分析

(1) 配置形態による保育保健活動の担当状況（図1）  
保育保健活動30項目の内容により『子どもへの支援』

13項目、『保護者への支援』5項目、『多職種・関連機関との連携・協働』12項目の3つのカテゴリーに分類し項目ごとの平均値を比較した。フリー配置群の方が、3つのカテゴリーの担当状況の平均値が高かった。その中でも『保護者への支援』に関しては、両群とも低値で、クラス担当配置2.31・フリー配置2.85であった。

(2) 保育保健活動の担当状況『子どもへの支援』（図2）

『子どもへの支援』13項目のうち9項目が、フリー配置群の平均値の方が高かった。クラス担当配置群の方

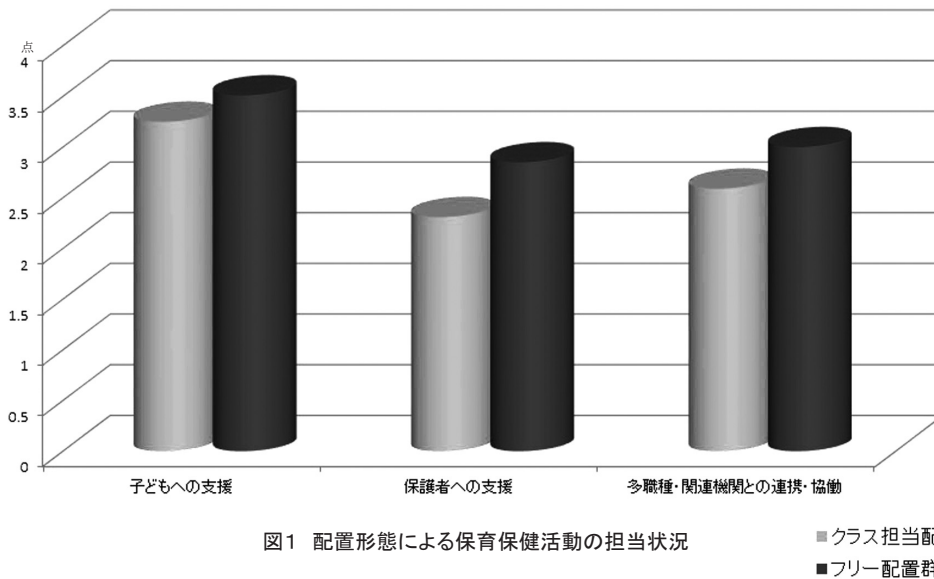


図1 配置形態による保育保健活動の担当状況

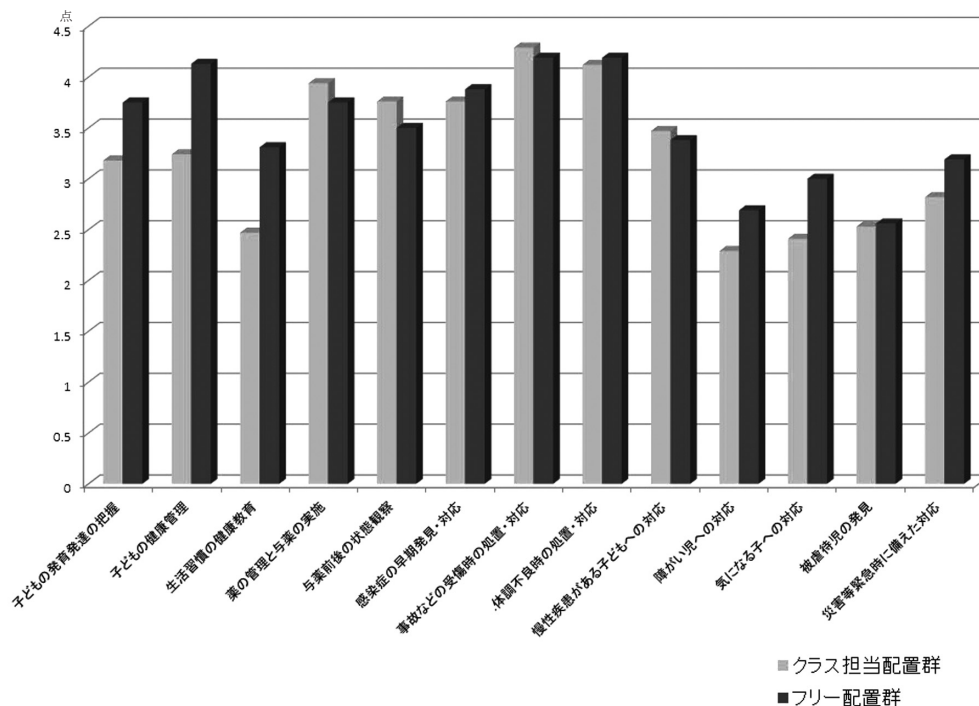


図2 保育保健活動の担当状況『子どもへの支援』

が高い4項目は、「薬の管理と与薬の実施」、「与薬前後の状態観察」を行ったり、「事故などの受傷時の処置・対応」や「慢性疾患がある子どもへの対応」であった。また、フリー配置群は、「事故などの受傷時の処置・対応」や「体調不良時の対応」だけでなく、「子どもの発育発達の把握」「子どもの健康管理」や「生活習慣の健康教育」についても3点以上であった。担任の有無に関わらず、「事故などの受傷時の処置・対応」「体調不良時の処置・対応」は3.5点以上であるが、「障がい児への対応」や「気になる子への対応」「被虐待児への対応」など、特別な配慮の必要な子どもへの対応はすべて2点台と低値であった。

(3) 保育保健活動の担当状況『保護者への支援』

(図3)

「保護者への保健だよりの作成・発行」が両群とも

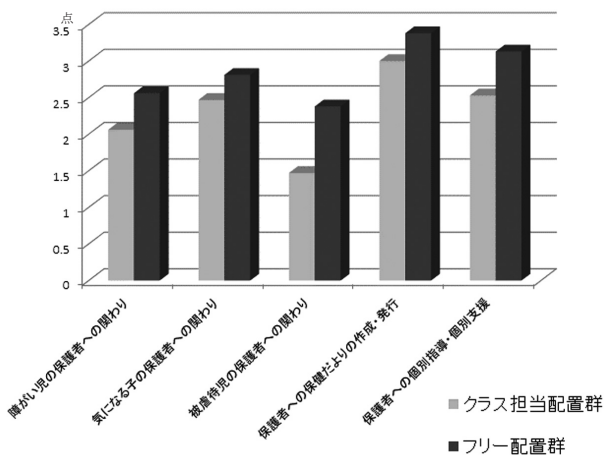


図3 保育保健活動の担当状況『保護者への支援』

3点台、フリー配置群の「保護者への個別指導・個別支援」が3点台であった以外、2点台と低い担当状況であった。特に、「被虐待児の保護者への関わり」は、クラス担当配置群では、1点台であった。

(4) 保育保健活動の担当状況『多職種・関連機関との連携・協働』(図4)

『多職種・関連機関との連携・協働』12項目のうち10項目が、フリー配置群の平均値が高かった。クラス担当配置群の方が平均値が高かった2項目は、「病児・病後時保育での健康観察と対応」、「保育所内外の他専門職種との連携」であった。「病児・病後児保育での健康観察と対応」が両群とも3点台であった。また、「地域の子育て支援としての電話相談」「小学校との連携」などの保育所外の多職種や関連施設との連携・協働は両群とも2点台であるが、「保育所内の他専門職種との連携」は両群とも3点台であった。

考 察

保育所における看護職配置率は、全国平均21.1%と低い現状がある<sup>7)</sup>。A県内では、423件の認可保育所があるが、A県保育協議会が把握している保育所看護職者の人数はわずか71人であり、約16%程度の配置率に留まっている。木村らの報告では、I県内での保育所看護職配置率は19.7%であり、その内クラス担当配置は81.2%、フリー配置は18.8%であった<sup>8)</sup>。高野の報告では、公立ではフリー配置が66.5%であるが、私立においては3割弱である実態が報告されている<sup>9)</sup>。クラス担当配置のほとんどが乳児(0歳児)クラスを

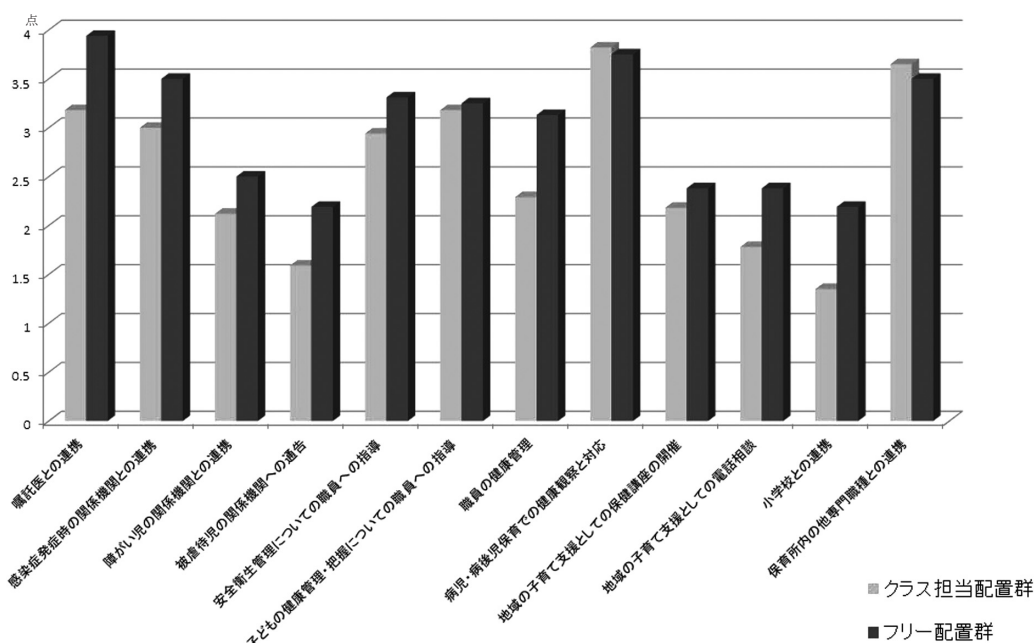


図4 保育保健活動の担当状況『多職種・関連機関との連携・協働』

担当し、クラス担当配置の看護職者は「全園児の状態把握ができない」<sup>10)</sup>、「保育業務に従事するため看護業務が行えない」、「保健教育とその準備の時間がとれない」<sup>11)</sup>等の報告がある。今回のA県での調査では、クラス担当配置が51.5%、フリー配置が48.5%を占めていた。それぞれの保育保健活動の担当状況を点数化し、その平均値を比較した。保育保健活動30項目を『子どもに対する支援13項目』『保護者に対する支援5項目』『多職種・関連機関との連携・協働12項目』に分け、それぞれの現状と課題を述べる。

### 1. 子どもへの支援

保育保健活動30項目中、13項目は『子どもへの支援』に関する項目である。クラス担当配置群よりフリー配置群の保育保健活動の担当状況の平均点数が高かった。クラス担当配置の場合、クラス担任として直接子どもと関わりを持ちながら保育を行っているため、ケガや病気の対応や薬を投与し前後の観察をする等、直接的なケアをすることが多いことが推測される。そのため、クラスを持たないフリー配置群の看護職者よりも高い点数となったと考えられる。しかし、フリー配置群の看護職者は、「子どもの発育発達の把握」や「子どもの健康管理」「生活習慣の健康教育」などの保育保健活動の担当状況の点数がクラス担当配置群の看護職者より高い傾向がみられた。これは、クラスを持たないため、保育所内の全ての子どもの健康状態を把握することが可能であることが考えられる。そのため、全園児の健康管理や健康教育を実践するという看護職本来の役割が遂行しやすいことが推測される。「障がい児への対応」「気になる子への対応」「被虐待児の発見」など、個別な配慮の必要なケースへの担当状況は、クラス担当配置群・フリー配置群の両群とも2点台である。上別府らは、保育所での慢性疾患の子どもの受け入れは2～3割、障がいのある子どもは6～7割、被虐待への対応は約3割程度であると報告している<sup>12)</sup>。今回の調査でも、個別な配慮の必要な子どもを保育所が受け入れていない場合と、入所していたとしても事例が少なく、関わる機会が限られているかもしれないことが理由として考えられる。以上より、園全体の子どもの把握した上で健康や安全に関するきめ細かな指導や管理をするためには、保育所看護職者をフリー配置とする必要がある。またフリー配置であれば、必要に応じ子どもの保育にも関わりながら子どもたちの一人一人の特徴の把握をすることが可能となると考えられる。

### 2. 保護者への支援

クラス担当配置群・フリー配置群の両群で『保護者に対する支援5項目』の平均点数は2点台と低値を示し、保育所看護職者の保護者との関わりが希薄な現状が明らかになった。育児不安を持つ親が多いことや虐待等の現代の育児の持つ問題点に対して、保育所はその専門性や施設・設備などを生かして保護者を支援する役割がある<sup>13)</sup>。齋藤らは、「保護者は個々の子どもの体調や発達の状態に応じたきめ細かなケアを看護職者に望んでいる」、「看護職がいることにより身体面だけでなく精神面も助かる」等、保育所看護職者が行う専門的な役割への期待を報告している<sup>14) 15)</sup>。しかし、「勤務時間やクラス配置などの理由で、保護者との直接的な関わりが持てない」や「保護者への情報伝達の役割は保育士が行っている」<sup>16)</sup>などの現状があり、配置形態により保護者への関わりが困難であることが報告されている。A県内の保育所でも、保育の専門家である保育士が、お迎えに来る保護者に対し一日の子どもの様子を伝え引き渡ししながら、保護者の悩みや不安への対応をしている状況が考えられる。また、上別府らの報告では、常勤でフリー配置の看護職者は約5割、残りの半数が常勤であっても保育士定員配置(保育士要員として雇用されるためクラスを担当し保育を行う)となっている割合が約2割であることを報告している<sup>17)</sup>。A県の看護職者は常勤は36.4%、非常勤が63.6%であった。荒木らの報告では、常勤が76.5%、非常勤が19.6%<sup>18)</sup>であり、A県は非常勤の割合が高いということが明らかになった。フリー配置であっても非常勤の雇用である場合、保護者のお迎えの時間前に勤務時間が終わり、保護者との関わりがほとんど持てない看護職者もいることが考えられる。以上より、フリー配置という形態であったとしても非常勤の勤務形態である場合、保護者への積極的な関わりは困難な状況である。今後、常勤雇用でフリー配置の保育所看護職者が増やすなど、保育保健活動を十分に行える配置形態を推進していく必要がある。

### 3. 多職種・関連機関との連携・協働

本研究では、嘱託医や保育士・栄養士等の保育所内における連携・協働はクラス担当配置群もフリー配置群も3点台であるが、保育所外の多職種・関連機関との連携・協働は2点台であり、外部との連携・協働については困難であることが伺える。本研究の対象者の所属施設では病児保育が9施設、病後児保育が13施設で実施されており、12項目中10項目で、フリー配置群の方が点数が高く、「病児・病後児保育での健康観察

## 本研究の限界と今後の課題

本研究は、A 県という限定された地域での結果であるため、今後全国の調査により傾向を明らかにする必要がある。また、今回は「クラス担当配置」「フリー配置」という配置形態だけに焦点を当てた調査であるが、さらに多様な配置形態と保育保健活動の担当状況の関連を分析していく必要がある。また、保育所の管理者の保育保健に対する意識の違いにより看護職者の配置形態も変わることが考えられるため、管理者を対象とした調査も必要である。今後、国や県の指針やガイドラインの見直しや策定の基盤的な資料として活用され、保育所看護職者の専門性の向上と配置率の促進、配置環境の改善の一助となることを期待したい。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、快くご協力くださいました対象者の皆様及び関係者の皆様に心から感謝申し上げます。なお、本研究は第60回日本小児保健協会学術集会において発表した。

## 引用文献

- 1) 木村留美子, 棚橋祐子ら: 保育園看護職者の役割に関する実態調査(第1報)ー保育園看護職者の役割遂行状況と看護職者に対する保育士・保護者の認識ー. 小児保健研究 65 (5): 643-649, 2006.
- 2) 村上慶子, 西垣佳織ら: 東京23区内の保育所における保健活動と看護職の役割に関する実態調査. 小児保健研究 68 (3): 387-394, 2009.
- 3) 須藤佐智子, 鈴木久美: 東京都私立保育園看護職の業務実態調査, 保育と保健 14 (1): 50-56, 2008.
- 4) 前掲書 1)
- 5) 上別府圭子, 多屋馨子ら: 保育所の環境整備に関する調査研究報告書ー保育所の人的環境としての看護師の配置ー. 社会福祉法人日本保育協会, 2009.
- 6) 勝又すみれ, 門脇世紀代ら: 保育園保健職の仕事はこれだ! 保育のなかの保健 保健シリーズ No.4. 全国保育園保健師看護師連絡会, 2005年改訂.
- 7) 前掲書 5)
- 8) 前掲書 1)
- 9) 高野陽: 保育所における保健・衛生面の対応に関

と対応」「保育所内の他専門職種との連携」のみがクラス担当配置群の方が高い結果であった。クラスを担当し、保育の実践を行っている場合は、保育所内の多職種との連携・協働が行いやすい傾向があり、フリー配置の方が保育所外との連携や協働を行いやすいことが推測される。筆者らの先行研究報告でも、保育保健活動における看護職者の役割として多職種・関連機関との連携・協働が挙げられているが、実際に連携・協働している職種は「嘱託医」「保育士」「栄養士」「保健所」のみに留まっており<sup>19)</sup>、保育所内外のネットワークが整備されていない現状が伺える。子どもの健康や安全に関する具体的な実践においては、保育所内では保育士との連携・協働が不可欠である。また、アレルギー等の特別な配慮の必要な子どもがいる場合には、栄養士や調理員との連携・協働も重要である。さらに、虐待が疑われるケースや障がいや発達上の課題が見られる子どもがいる場合には、保育所内だけでなく外部の多職種や関連機関との連携・協働も必要となってくる。保育所において保育保健活動が円滑に行われるように、保健の専門職として中心的存在となり、保育所内・外の多職種・関連機関と連携・協働を推進するためには、フリー配置という配置形態にするだけでなく、保育所内外のネットワークの整備が必要である。

## まとめと提言

今回の調査で、配置形態の違いにより保育保健活動の担当状況に差があることが明らかになった。クラス担当配置群では、クラスのひとりひとりの子どもや病児・病後児保育の子どもの怪我や病気の対応についてはフリー配置群より平均値が高かった。しかし、子どもの成長発達に関わる観察や健康管理・健康教育を始め、『保護者への支援』や『多職種・関連機関との連携・協働』の殆どの項目においてフリー配置群の方が平均値が高いことが明らかになった。今後、保健的な観点を持ち子どもや保護者を支援していくためには、保育所看護職者の雇用配置をフリー配置とする必要がある。フリー配置になることにより、保育所全体の子どもの健康状態の把握が十分にできる。また、フリー配置及び常勤の勤務形態により保護者と直接的な関わりを持つ時間が持て、きめ細かな情報提供が可能となる。さらに多職種や関連機関との連携・協働も行いやすくなるなど、看護職者としての専門性を活かしながら、保育保健活動が遂行できるようになると考えられる。

- する調査研究—全国保育所における保健活動の実態—。日本子ども家庭総合研究事業，研究報告書(1)，2000.
- 10) 前掲書2)
- 11) 前掲書3)
- 12) 前掲書5)
- 13) 秋田喜代美，網野武博ら：2008年3月発表 保育所保育指針解説書。ひかりのくに：216-217，2008.
- 14) 齋藤幸子，高野陽ら：保育所における子どもの健康・安全管理に関する親の意見。日本子ども家庭総合研究所紀要36：183-187，1999.
- 15) 齋藤幸子，高野陽ら：保育所の保健活動に関する保護者の意識調査—保護者意見の分析—。日本子ども家庭総合研究所紀要39：263-270，2002.
- 16) 阿久澤智恵子，佐光恵子ら：保育所看護職者が認識している保育保健活動における困難感。日本小児看護学会誌22(1)：56-63，2013.
- 17) 前掲書5)
- 18) 荒木暁子，遠藤巴子ら：岩手県の保育保健の実態と看護職の役割。岩手県立大学看護学部紀要15：47-55，2003.
- 19) 阿久澤智恵子，佐光恵子ら：保育所看護職者が認識している保育保健活動における役割。日本児看護学会誌22(1)：48-55，2013.

## Current situation and issues relating to child healthcare activities of nurses at day care centers due to differences in work allocation

Chieko Akuzawa, Chiharu Aoyagi,  
Shiomi Kanaizumi\*, Nanako Matsuzaki\*, Kyoko Shimoyama\*\*,  
Keiko Sakou\*

\*Faculty of Medicine School of Health Sciences, Gunma University

\*\*Faculty of Health Care, Takasaki University of Health and Welfare

### Abstract

The aims of this study were to examine the current responsibilities of nurses in child healthcare activities conducted at day care centers, clarify the relationship between their work responsibilities and style of work allocation at these centers, and discuss the issues relating to the work allocation of nurses at these centers for the future. Research was carried out with 41 nurses who participated in a workshop run by the childcare council in Prefecture A, out of a total of 71 nurses working in day care centers in the prefecture. The nurses responded to a questionnaire created by the authors. The 30 questionnaire items concerning the allocation of healthcare activities in the day care centers were divided into three aspects: support for children, support for families, and cooperation with various professionals and related agencies. Differences in the three aspects were compared between nurses responsible for particular classes and nurses not tied to responsibilities for particular classes. The results revealed that mean scores were higher for the nurses not tied to responsibilities of particular classes in all three aspects examined. This indicates that in order for nurses at day care centers to make best use of their specialized skills and knowledge, and carry out child healthcare activities, the styles of work allocation must be improved.

Keywords: nurses day care center, style of work allocation, child healthcare activities